

2015年 9 月 9 日、10日の歴史的豪雨を経験して
—茨城県常総市と栃木県鹿沼市で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：2015年9月の大雨により、開倫塾も被害を受けたそうですね。

A：(1)はい。栃木県、群馬県、茨城県の3県に60校舎を展開中の開倫塾では、9月9日、10日の50年に一度の歴史的豪雨により、栃木県鹿沼市の鹿沼駅前個別指導専門校と茨城県常総市の石下校・水海道校の3校舎が冠水の被害を受けました。

(2)鹿沼駅前個別指導専門校の授業は、隣のビルにあるセミナー校舎の教室を使用して1日も休まず行うことができました。常総市の水海道校は水害の翌週の9月14日(月)から、石下校は9月15日(火)から授業を再開することができました。学校や他の商店に先んじての素早い再開に、塾生や保護者、地域から高い評価を頂いたようです。

Q：3校とも、冠水後なぜそんなに早く授業を再開できたのですか。

A：(1)開倫塾の社員の皆様が塾生、保護者、地域社会の皆様のために1日も早く授業を再開させなければと一致団結して下さった賜物です。

(2)開倫塾では、すべての校舎で、整理、清掃、整頓、清潔、躰の「開倫5S学校」の活動を展開。5Sの精神で、各校20名以上の社員の皆様が冠水後の排水、後片付け、清掃、ゴミ出し、整頓、消毒などを何日もかけて行って下さったためと、深く感謝しています。

Q：3校舎の冠水以外、被害はありましたか。

A：(1)今回の歴史的な豪雨は開倫塾が展開する全地域を襲いました。被災直後に開倫塾の全塾生と全社員の安否確認を校舎ごとに行いました。全員の安否が確認され安心しました。

(2)ただ、鹿沼市や常総市以外にも、川の水が溢れた地域がかなりありました。避難所や知人宅へ避難したり、家に水が入ったりした方がおられました。開倫塾の社員の皆様の中には夜に自宅に帰れなかった方も多く、また、自動車が水没した方も4名いました。

Q：非常時対策として、皆様にお勧めしたいことはありますか。

A：(1)校舎への電話は校舎担当者のケータイなどに転送されるように「ボイスワーク」の契約をし、忘れずに機能設定をしておくことをお勧めします。

(2)緊急時の責任者と各自の役割分担を明確にしておくことと、連絡網の定期的な更新もお勧めいたします。

(3)次の文章を御参考までにお読みください。これは、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の 6 日後、3 月 17 日に開倫塾の塾生の皆様へのメッセージとして「**今やるべきことは、健康の維持、体力の維持**」一心を静かにして、ひたすら勉強しよう」と題して Q and A の形でお送りしたものです。

今やるべきことは、健康の維持、体力の維持
一心を静かにして、ひたすら勉強しよう

Q 1 東日本大地震による余震の連続と、原子力発電所の事故とで不安な毎日を送っています。このような危機的な状況の下で何をしたらよいのでしょうか。塾長のお考えを聞かせてください。

A (1)一番大切なのは、健康を維持し、体力を維持することです。健康には、身体健康と心の健康があります。

(2)心の健康で大切なのは、「不安だ、不安だ、心配で仕方がない」と自分や自分の周囲にいる人々を追いつめないことです。

(3)不安は、不安を呼び、それが原因となって体調を崩す人さえいるからです。「あきらめたらおしまい。こんな時だからこそ、明るく朗(ほが)らかに過ごそう」と考え、毎日を過ごしてください。

(4)但(ただ)し、必要な時以外は外に出ない、外に出る時は必ずマスクを着用する、帰宅したら手洗いやうがいを確実にやるなど、新型インフルエンザの時をよく思い出して、自分の健康は自分で守る努力をしましょうね。

(5)TV の大震災関連のニュースを休みなく長時間真剣に見続けると、体調を崩します。TV を見る時間の長さもよく考えてください。

Q 2 では、何をしたらよいのですか。

A (1)被災地の避難所で苦しい生活をしておられる方々や、危険を顧みず自らの命を使って被災地で災害支援をなさっている方々、社会を支えようと命懸けで仕事やボランティア活動をなさっている方々のことを思い、自分自身が今やらねばならないことを「まじめに」やり抜くことです。

(2)小学生や中学生、高校生、大学生や大学院生の皆様の本分、やるべきことは「勉強」です。で、まじめに「自分の勉強」に取り組むことをお願いします。

(3)電気や水道、食料や夜暖かく眠る場所があることがどれだけ有難いことかを考え、多少不自由なことはあっても、文句を口にすることなくそれらを「耐え忍ぶ」ことが、我慢をすることです。

(4)自分のやるべきことは勉強であると考えたら、ひたすら机に向かうことが人間として当たり前姿だと私は考えます。

Q 3 家の手伝いはしたほうがよいですか。

- A (1)保護者の皆様は、仕事に行くのに必要なガソリンの確保から始まり、家族の生存に欠かせない食べ物や生活物資の確保で疲れ果てていることと思います。
- (2)塾生の皆様は、保護者の皆様のそのような肉体的・精神的な疲労に思いを馳せて、できるだけ家事手伝いをすべきと考えます。
- (3)カバンの中から始めて、机の上や机の中、部屋の中を毎日きれいに整理、清掃、整頓をする。自分の身の周りのことは自分から進んですることがまずは大切です。
- (4)風呂場やトイレ、廊下、居間、玄関、家の外も誰に言われなくてもきれいに整理、清掃、整頓をして、家の中を清潔にすること。
- (5)整理、清掃、整頓、清潔、躰はローマ字で書くとS(エス)で始まるので、この5つを「5S」(ゴエス)といい、社会に出て仕事をするときには欠かせません。
- (6)学校で勉強することが仕事である塾生の皆様も、この「5S」を自分なりに身に着け、家事の手伝いのときに役立ててください。社会に出てからも役に立ちますよ。(私は、この「5S」が「就職力」、つまり就職するときにも必要な能力で、まず初めに身に着けるべきものと考えます。)
- (7)家族や友達だけでなく、自分の周りにいる人、特に困っている人に親切にしてあげましょうね。

Q 4 最後に一言どうぞ。

- A (1)家に居る時間の長いこんな時にこそ、普段読むことのできない本をゆっくり、じっくり、また何回も読み、著者が何を訴えたいのかを読み取り、「これは!」と共感したところは「書き抜き読書ノート」にたとえ一行でも書き抜いておきましょう。
- (2)日本の歴史の教科書に必ず載るような大震災です。新聞は一面から最後のページまでなめるように繰り返し読み直し、新聞社が読者に伝えたいことは何かを自分の力で考えましょう。大震災後の新聞は1~2か月分保存し、しばらくしたら大切と思われるところを切り抜き、スクラップブックに貼り、コメントを書いておきましょう。
- (3)新聞は、皆様の「自分で考える力」「批判的思考能力」を育てます。新聞を含む本格的な読書で、皆様は「思慮深さ」を身に着けることができます。
- (4)この大震災の体験を通じて、何のために勉強するのか、何のために生きるのかを自分なりに考えるきっかけをつかんでくださいね。
- (5)開倫塾では、避難所等で生活をなさっている方をゲスト塾生としてお迎えしています。避難所生活をなさっているゲスト塾生の皆様とも、同じ開倫塾で学ぶ塾生として仲良く勉強しましょうね。
- (6)では、がんばってください。

— 2011年3月17日記 —

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)1997年の阪神淡路大震災や2011年の東日本大震災の教訓を活かし、自然災害に備えるべきということです。

(2)2015年9月の北関東と東北を襲った50年に一度の歴史的豪雨による被害は甚大なもので、死者は7名でした。TVなどで報道があったように、自衛隊や消防、警察、行政、マスコミ、ミニコミの活躍が大きかったと同時に地域の人々の危機意識が高かったため多くの人が救われました。3.11以来、全国の小・中・高校では、毎月1回、避難訓練が行われていますが、その成果も大きかったと思われます。

(3)いつ、どのような大災害があっても慌てないように、塾生、生徒、社員の避難訓練は毎月行うこと、救命訓練、防火訓練は毎年行うことをお勧めいたします。

(4)緊急時の連絡網の整備・点検も毎月1回は実施した方がよさそうです。

Q：皆様にお勧めの本はありますか。

A：(1)2015年8月3日に日本でも発売された「セカンド・マシン・エイジ」(日経PB社刊)に続けてお読みになる本としてお勧めなのが3冊あります。

①1冊目は、スタンフォード大学のステファン・ヘック先生と、マッキンゼーのマット・ロジャーズ先生の共著「リソース・レボリューションの衝撃—100年に一度のビジネスチャンス」プレジデント社2015年9月5日刊です。

②2冊目は、インテルを30年間取材し続けたジャーナリスト、マイケル・マローン著「インテル—世界で最も重要な会社の産業史—」文芸春秋社2015年9月10日刊です。

③3冊目は、EUの政策形成に最も大きな影響を与えた話題の書で英国サセックス大学教授マリアナ・マッカート先生著の「企業家としての国家—イノベーション力で官は民に劣るという神話」薬事新報社2015年9月11日刊の3冊です。いずれも、300～400を越える大著ですが「セカンド・マシン・エイジ」と併読なされば、これからの世界がどうなるか、貴重な示唆が得られます。

(2)フォルクス・ワーゲン問題をどうドイツが乗り切るか、

①ドイツ在住のジャーナリスト熊谷徹著「日本とドイツ、ふたつの戦後」集英社新書、集英社2015年7月22日刊と

②吉森賢著「ドイツ同族大企業」NTT出版2015年9月3日刊と

③渡部昇一著「ドイツ参謀本部」中公文庫、中央公論社1986年10月10日刊の3冊を読み考えると勉強になり、また、興味深いと思います。

(3)リーダーシップの古典中の古典、「貞観政要(じょうがんせいよう)」が文庫本で出版されました。呉兢著、守屋洋訳「貞観政要」ちくま学芸文庫、筑摩書房2015年9月10日刊です。経営者としてやってよいこと、避けるべきこと、ガバナンスの強化に役立ちます。

(4)新しい働き方を考えるには、昭和女子大学教授の八代尚宏先生の最新刊「日本的雇用慣行を打ち破れ—働き方改革の進め方—」日本経済新聞出版社2015年4月22日刊が最適。

(5)主権者教育を考える方には、

①ドイツの憲法学者カール・シュミット著「政治思想論集」ちくま学芸文庫、筑摩書店2013

年 3 月 10 日刊と、

- ②同著「現代議会主義の精神的状況」岩波文庫、岩波書店 2015 年 7 月 16 日刊、この 2 冊をお読みになり、国家の価値と個人の意義、民主主義と議会主義をお考えになることをお勧めいたします。読書の秋です。お忙しいとは思いますが、1 日に 1 時間は本格的な読書に励みましょう。

御礼

全国各地の学習塾はじめ数多くの皆様から、この度冠水した開倫塾の校舎の塾生へ激励の色紙やお言葉をお送り頂き、ありがとうございました。塾生だけでなく、地域社会の皆様、保護者、社員も大いに励まされております。皆様の御厚情に心から感謝申し上げます。